

巻頭言

甲南大学教育学習支援センター所長 高 龍秀

甲南大学は、2019年度に自己点検・評価報告書を作成し、大学基準協会の認証評価を受けることになる。2004年度から始まった大学基準協会による認証評価制度は、2018年度から第3期認証評価となり、それ以前より厳しい評価制度となっている。この第3期認証評価では以下のようなポイントが重視されている。第1に、学位授与方針(DP)、教育課程の編成・実施方針(CP)、学生の受け入れ方針(AP)という3つのポリシーが相互に関連づけられた体系として明確化されていること。そしてDPとCPにおいて「学習成果」が明示されていることが重要である。第2に、これら3つのポリシーに則した学位プログラムを体系的に構築し、この学位プログラムを適切に管理・運用し、さらに様々な効果的教育方法を実施することで、学生の「学習成果の向上」を目指すことが求められている。第3に、大学の自己点検・評価活動を改善につなげ教育の質保証を実現しうる全学的な内部質保証システムの責任組織が明確であり、全学的なPDCAサイクルが機能していることが求められている。

このように、DPとCPにおいて示された「学習成果の向上」が各学部学科の教育課程を通じてどのように達成できているのか、そのための多様な教育方法としてどのような実践が行われているのか、それら「学習成果」を適切に評価・測定し、課題があれば教育プログラムの改善にどうつなげているのかが問われている。この側面において、教育学習支援センターの業務と本紀要で紹介されている様々な教育実践の取り組みはとても重要な意味を持つことになる。各学部学科で実施されているアクティブ・ラーニング型の授業、課題発見・解決型のPBL授業、これらの授業における上級生LAによる学習サポート、反転授業などの取り組みが正課科目における学習成果の向上に寄与していると推測されるが、今後その効果測定に関しても研究する必要がある。正課科目以外でも学生の予習・復習時間を促す効果が考えられる、ラーニングコモンズでの学習支援デスク、レポート・実験レポートを上級生がアドバイスするライティング・サポートなどの取り組みが本学では実施されている。これら多様な教育実践の取り組みが、3つのポリシーで掲げられた「学習成果の向上」に具体的にどのようにつながっているのか、その効果はどの程度なのかという検証が必要となるであろう。本紀要を通じて、甲南大学らしい多様な教育活動実践の経験交流が活性化され、本学の教育力の向上に寄与することを期待している。